## モノづくりを欠切に

す。

その成果となった装

簡有 易機 計物 測の

長

(期連続でモニタリング

はうれしそうにこう話

機物質の漏れや相対濃 置が石油類、塩素系有

で きる VOC ( 揮発性 度を簡易、迅速に検知

有機物質)センサー装

ンチャーのオー・エス

各種センサー開発べ

・ピーの山本弘信社長

近づいた」

「会社の理念に一歩

## 技術 創

## ー・エス・ピー

理念に近づく 置だ。

社会と環境の実現を目 が安心して生活できる ノロジーを生かして人 これまで培ったテク トグラフィーや蛍光分 サンプルをガスクロマ 有機物質を調査するに 環境汚染原因となる 検知管や採取した

る手法などが一般的に 用いられている。しか 析法を利用して検知す となり、時間やコスト 雑な測定手続きが必要 がかかってしまう。 新装置は長期、継続

54</ し、長期連続的なモニ

タリングは難しく、 煩 だ。 込んでの利用も可能 「汚染現場での簡

易調査、分析用として は最適だ」と山本社長 は自信を見せる。 新装置は有機物質の 日本法人のヘキストリ る。

化学メーカー、ヘキス と山本社長は説明す ト(現アベンティス) の第一弾製品となる」 山本社長は独の大手

(独自開発の新規高分子膜索子と光検出技易、迅速に検出するVOCセンサー装置環境汚染原因となる有機物質を現場で簡 術を利用する

れぞれの数値の差や変 初期数値と吸着後のそ ことで有害物質を検 化をモニタリングする なる。膜厚と屈性率の 濃度検査する。 断行、 あったが、

8 · 22002)

**3**042 · 96

職で培った技術の成果 「この装置開発は前 したヘキストに帰属し た各種研究用機器を退 決意、三十二歳で独立 る。他社からの誘いも を集中するリストラを した。 職金で買い取った。ま なかった」(山本社 医薬品部門に経営資源 ライセンス契約を結ん 長)と起業することを で投げ出すことはでき で新装置の開発に利用 ていた特許も独占的な た、研究員時代に出願 いた技術の研究を途中 した。研究で用いてい 解雇通告を受け 「手掛けて ○2年10月期見込
○資本金=三百万円 市東三ツ木2の14 ◇本社―埼玉県狭山 ◇社長―山本弘信氏

品質を現場で簡易に調 自技術を用いて軽油の その過程で生まれた独 まな障害を体験した。 査する「軽油チェッカ た資金面、企業間との ていてはわからなかっ 信頼、実績などさまざ 独立後、企業に属し きい。

ー」を開発、販売を始 と今後の展開に期待を 規模はとても大きい」 無や濃度を検知できる の水中の有機物質の有 グに利用できる。市場 合的な環境モニタリン センサーとの併用で総 「今後は現在開発中

神庭芳久)

## 社 長

ニタリングにも対応す 能で、パソコンとの接 的なモニタリングも可 プローブを土中に埋め かボーリング後、検知 モニタリングできるほ 続でオンラインでのモ る。空気中に設置して

ー素子は、シリコン基 有機物質が蓄積すると する新規高分子膜をコ 板に有機物質のみ吸着 知プローブ内のセンサ る操作部からなる。検 検知プローブと濃度な どがデジタル表示され 有無、濃度を検知する ティングしている。 ジーで、先端化学材料 を開発する研究開発部 門の「有機物質センサ サーチアンドテクノロ ンサーの開発に取り組 者としてさまざまなセ んでいた。 プロジェクト」の技術

解雇通告で奮起 しかし、

実現したが、

まだま

ど利用されて製品化を

だ普及しきれていな

い」と山本社長は現状

ヘキストが

シリコン基板上が厚く

を話す。 ◇従業員―四人 方、新装置は環境

込める。 ス管理といった工業分 の生産過程中のプロセ ェックや化学製品など リンスタンド、タンカ 野など幅広い利用が見 の漏洩(ろうえい) ー、パイプラインなど 油化学プラントやガソ 汚染現場での簡易調 査、分析用のほか、 その市場は大 チ 石

めた。各地の自治体な

水曜日に掲載